

鈴鹿医療科学大

企業グループなどと包括協定

鈴鹿医療科学大学は17日、松阪市内に拠点を置く医療機器関連の6社で構成する「松阪メディカルメンバーズ(MMM)」と、三十三フィナンシャルグループの地域商社・三十三地域創生(本社松阪市)との3者で産学連携の包括協定を結んだ。医療現場の課題解決に向けた医療機器などの研究開発や学生に対する実践的な人材育成などを三位一体で推進する。(四日市)



包括連携を結んだ(右から橋本社長、高木理事長、熱田社長)

MMMは医療機器の製造を手掛ける松阪市内に本社または工場を構える6社(岩崎工業、オクムラ、サカキ&EWAYS、橋本電子工業、三重化学工業、三重金属工業)で構成する。2022年9月に発足し、人的・技術交流や情報共有に加え、製品開発や販路開拓に取り組み、3年間の累計で約2200万円の売り上げ実績を出している。3者は23年に三十三地域創生を介して鈴鹿医療科学大でMMMによる展示会を開催している。今回、地域医療の課題解決や人材育成などをよりスピーディーに進めるため連携を深める

研究開発や人材育成を推進

ことにした。

今後、病院などを有する鈴鹿医療科学大の医療現場のニーズを反映した製品の新規開発や販路開拓、MMMによる鈴鹿医療科学大での講義の開催、インターンシップの受け入れなどを想定する。

鈴鹿市の同大白子キャンパスで開かれた締結式には、同大の高木純一理事長、MMMのリーダーで橋本電子工業の橋本耕成社長、三十三地域創生の熱田渉社長らが出席。高木理事長は「医療機器の研究開発の活性化はもちろん、人材不足が課題の医療・福祉分野のメーカーなどへ就職できる人材の育成にもつながってほしい」と述べた。橋本社長は「われわれメーカー側からすると、鈴鹿医療科学大の学生は即戦力の人材として期待できる。営業や商品開発などの面で、医療現場を知っていることは強みになる」と話した。